

Nadeshiko-no-Kai Report



東京学芸大学 附属小金井小学校 ● 同窓会

撫子の会

小学校は
エンピツの
匂い

会報

25

号

特集：同期会・クラス会が動き出しています。



同窓生の皆様から同期会・クラス会のご報告が多数届きました。

コロナ禍後、久しぶりに集まった方々、定期的に行われている方々。

久しぶりだな！元気だったか。あふれる笑顔。よみがえる思い出。

撫子の会は、これからも母校への支援とともに皆様の活動もサポートしてまいります。

「撫子の会」会長 野久尾 悟

「クラス会報告」

豊島昭和 30 年卒 大島 昭三

我々は、戦後 10 年の節目の年、昭和 30 年 (1955 年) 3 月に豊島小学校を卒業した 6 年 2 組の仲間、1 年生から 6 年間全く組替え無しで、全員が同じ 2 組でした。卒業時は男子 24 名、女子 22 名でしたが、残念ながら既に男子 8 名、女子 3 名が鬼籍に入って仕舞い、随分寂しくなってきました。それで『元気に会えるうちに会っておきたいね・・・』ということで、事実上“最後になるかもしれないクラス会”をこの 4 月 25 日に 4 年半振りに開催しました (前回はコロナ禍が始まる前年の 11 月で、24 名集まりました)。幸いなことに前回時点の存命者は全員、4 年近くのコロナ禍を無事に生き延びることができましたが、残念なことにコロナとは関係なく、クラス会の直前に男子の級友が 1 人病気で亡くなりました。また、前回から今回までの間に男子 2 名、女子 1 名との連絡が途絶えてしまったのは残念なことです。しかし、幹事の懸命の努力の結果、消息を確認出来た 31 名のうち、23 名もの学友が一堂に会して旧交を温めることが出来たのは何よりでした。会場は昔の豊島小学校の近くが良かろうということで、池袋西口のメトロポリタンホテル 2 階の中華料理店「桂林」で会食し、4 年半ぶりに楽しく旧交を温めることが出来ました。そのあと、ほぼ全員で豊島小学校の校舎跡 (現在の「東京芸術劇場」の前、池袋西口公園“GLOBAL RING”の南隅) に設けられている「記念碑」を囲んで撮ったのが表紙の写真です。

尚、当日集まれた 23 名は皆ほぼ元気で、『これでクラス会を終わりにするのは淋しいから、またやろうよ・・・』と言う声も多く、我々の交友の火はまだ当分は消えることがなさそうなのは誠に喜ばしいことです。

「なでしこの徽章と共に」

追分昭和 24 年卒 佐藤 英子

私が附属追分校に通い始めたのは、昭和二十一年四月の編入試験を受けて四年生一学期からです。東京第二師範女子部附属追分小学校という名称でした。

その前年の昭和二十年は戦火と敗戦で、子供にとっても苦しい時で、小学校三年の五月、杉並からの学童集団疎開で長野に転校し、その後、四か所の学校を転々とし、やっと附属小学校で安定しました。

追分校は、都電 19 番の停車場、東大農学部前と追分町の間三階建て、E の型で建っていました。本郷通りに面した半分を小学校が使い、あとの半分は師範学校でした。音楽室や美術室が角にあり、一番端の二階の教室はベランダがありました。その教室は、床が汚れていて、それを担任の榎本隆治先生に海軍仕込みの床磨きを教えていただき全員できれいにしました。

屋上に昇ると、まだ遙拝殿があり数段高く築かれたその場所は、クラスメート達の相談場所となり、仲良く話し合ったものです。屋上の一部は花壇になっていて、四方を眺めれば工場地帯のオバケ煙突が遠くに見え、反対側には東大や上野の博物館の屋根が緑青色に輝いて見え、本郷通りをガタゴト、チンチンと都電が音をたてて通ります。

榎本先生の級では、何事も自分達で考えながら話し合っただけで物事を解決していました。お弁当を食べた後、先生を取り巻き、先生の定期券から年齢を知ったり、お洒落な背広を召していらっしやると、ポンポン肩をたたいたり、尊敬しているのに友達みたいでした。でも時々、「朝っぱらから言いたくないが・・・」で始まる一言の注意もよく受けました。

当時、壁新聞を作成するのが流行っていて、皆が授業を受けているのに、二、三人で豆記者気取りで朝露けむる東大構内を取材したり、また音楽の飯田秀一先生率いる合唱で、内幸町の日本放送協会ラジオ放送に出演、その為に暗くなっても音楽室で練習したり、当時、野球大会も開催され、

男子は精一杯練習し、女子は声をつぶして応援した楽しい賑やかな一時です。

青木先生の図工は、いつも廃物利用を前提に作品を作ること、それなりに苦勞して作りましたが、これが身について現在に至っています。そして、同級生の書いたシナリオで劇を練習して講堂で演じたりしました。

毎年、師範学校から教生の先生として、一クラス(25名くらい)に六名くらい配属され、教室の後ろの方で座っていました。授業のやり方を学んでいる学生ですが、私達生徒にとっては親切なお姉さんのようで、仲良くおしゃべりし、これも楽しい思い出です。

夏休みになると鵜原へ行き、泳いだり地曳網の体験をさせてもらったりしました。両国駅から乗車、何と、お米と毛布を持参した記憶がありますが私だけでしょうか？学校には戦後すぐなのにプールで泳ぎの練習も出来、臨海学校での生活。お蔭で現在も泳げます。

「竹馬の友」八十年も続く友を得て、豊かに人生の基礎を踏み出せた追分小学校です。

ご寄稿

「撫子の会」とのご縁を得て

なでしこ育成会 中島 菊子

昨年11月11日、コロナ禍を経て再開された「ぶらり同窓会」会場で「なでしこグッズ」の即売会を実施させていただきました。リアルでの同窓会開催を知り、前会長と共に急遽企画したため理事の方々へ事前にご相談ができておらず、当日まで心許ないものでしたが、初めてお会いした野久尾会長から「会場内で盛大に販売して良いですよ！」と大変心強いお言葉を頂戴し、緊張が解けたことを覚えております。

その後、母校にお集まりになられたOB・OGの皆様方に、お土産として校章の入ったグッズをご購入いただき大変嬉しく思いました。本当にありがとうございました。即売会後には、皆様方から貴重なお話を伺う機会もございました。昭和初期の至楽荘生活の話題では荘生活を支えられた当

時のお母様方のお話もあり、同じ保護者として想いを馳せますと、感慨深いものがございました。附属小学校の子供達が令和の時代にコロナ禍も乗り越え、鵜原の海で逞しく泳ぐ機会を得られているのも、OB・OGの皆様方の応援が大きな力になっているように感じました。また、最年少中学1年生の同窓生もご参加されており、「撫子の会」の益々の発展を目の当たりにした日でもございました。

さて、ここで「なでしこ育成会」についてご説明いたします。教育後援会である本会は、小金井小学校の向上発展を図ることを目的に、国立大学法人に寄付をして、教育環境の整備をはじめ、学校の教育活動や研究活動を援助しております。児童や保護者が学校生活で役立つ「なでしこグッズ」の販売を行い、利益を全額寄付する活動も行っています。

約10年前の長男入学時に「なでしこバッグ」を購入した時はとても嬉しく胸が高鳴りました。校章と105thの文字が入ったエコバッグです。我が家の2人の子ども達が在校している間に多種多様な「なでしこグッズ」が販売され、大変好評をいただいています。

今年度の同窓会でもなでしこグッズの即売会を実施させていただくことになりました。なでしこバッグは大・中・小と3種類、ノートパソコンも入るタブレットケース、ドライTシャツ等ご準備してお待ちしております。また、今回は「なでしこ風呂敷(限定品)」も販売いたします。小金井小学校の様々な物をイラストにしたオリジナルデザインです。お手に取って御覧いただけましたら幸いに存じます。

最後に、学校役員活動を通じて学年を超えた保護者の方々と出会い、さらには「撫子の会」の皆様方とのご縁もいただきました。直接お会いできる機会が戻ってきたおかげで、この様な新しい出会いに恵まれたのだと感じています。このご縁を一層の力に「なでしこ育成会」を力強く繋いでいけるよう、引き続き尽力して参ります。今後とも、小金井小学校を温かく見守っていただけますよう、よろしく願い申し上げます。

「生きる力」を生む源泉とは

東京学芸大学附属小金井小学校校長

小森 伸一

東京学芸大学教授（芸術・スポーツ科学系 健康・スポーツ科学講座 体育学分野）、ホリスティック教育理論を基盤とした野外環境教育、サステイナビリティ教育、オルタナティブ教育、体験学についてご研究

皆さんの心に強く残る小金井小学校での思い出は何でしょうか？

卒業生の方にお聞きすると、多くの方が一字荘や至楽荘生活のことを話して下さいます。ここ十数年来では、3年生から始まり卒業するまでに、計21泊27日をする事になっています。私を知る限り、全国の小学校の中でも他に類をみない取組みです。それら荘生活は、今般での言葉を使うと、「集団宿泊活動」であり「(自然)体験活動」となります。その特徴は、非日常的な直接体験となることです。このような形態の体験活動は、「生きる力」を育む源泉として、国の基本的な教育指針として重視されています。

卒業生の皆さんにおいては、荘生活という多様な体験活動を通して培われた学びや成長が、その後の人生で逞しくかつより良く生きていくための糧となってきたと拝察するところです。それは、決してご自身は意識されてはいないかもしれません。しかし客観的にみると、そのような好影響が推察できるのです（その根拠については後述します）。

それでは、その荘生活体験の意義（＝効果）は何だと思いますか？ その一つの見方・考え方として、普段の生活とは違った生活や活動となることで、否が応でもチャレンジする体験の機会が多くなることです。日常の自宅や学校での生活とは異なることをするというのは、当然勝手に違ってきます。ゆえに、簡単には出来ないことや大変だと感じる事が多く出てきます。皆さんも、ご自身の荘生活について思い返すと、「あんなことやこんなことが大変だった」と脳裏に浮かぶことが大なり小なりあるのではないのでしょうか。一方で、その困難に対して簡単にあきらめることなく、それに挑んで達成したことで生じた充実感や自信などといったポジティブな気持ちもお持ちではないのでしょうか。

人は感情の伴う記憶は残りやすいという脳・心理

的機能上の特性を持ちます（ゆえに、非日常的活動＝チャレンジ体験にてたくさん心が動いたことで、思い出としてより強く残っている人が多いのです）。それがポジティブな感情の場合は、その後の心身の成長に好影響を及ぼすことが認められています。

たとえば、ベネッセ教育総合研究所が「経験を通して学ぶことの意味を考えるデータ」についてまとめた結果を発表しています（小1～高3まで12学年の約2万組の親子の意識・行動の変容について分析）*。それによると、非認知能力との関連では、「チャレンジングな経験」が多い子供（多群）は少ない子ども（少群）に比べて、「粘りづよさ」「挑戦心」「社会への関心」「将来観」「自己肯定感」「今の幸せ実感」を肯定する割合が高い傾向となることについて報告されています。そして、そのような非認知能力は、充実した人生を創造していくうえで基盤となる力であることが認められています（当該研究では、認知能力においてもチャレンジ体験が肯定的効果をもたらすことを示しています。より詳しくは下記リンクを参照ください）。

いかがでしょうか。昔からわが子の成長を願う親への格言に「かわいい子には旅をさせろ」というものがあります。これはすなわち、「かわいい子には（多様で多くの）体験をさせよう」と言い換えることができるでしょう。この経験則は、近年の研究結果でも確認されているところでもあるのです。これは、卒業生の皆さんご自身が生きる証になっているのではないのでしょうか（きっとそうだと信じています！）。

[* 出典（参照日：2024.6.5）]

<https://berd.benesse.jp/special/datachild/datashu06.php>



【5年生児童：車山山頂】

「附属小金井小学校の近況について」

副校長 塚本 博則

本校の教育目標は、「明るく思いやりのある子」、「強くたくましい子」、「深く考える子」の3点です。今年度も昨年度に引き続き「強くたくましい子」を重点目標に設定しました。コロナ禍で不足していた体験活動を重視し、人や自然とかかわる中で自己と向き合う機会を多く設定し、その具現化に努めていきます。

基幹の教育活動に位置づけている校外宿泊生活は、コロナ禍を経て従来の形に戻して実施しています。今年度も5月から6月にかけて、5年生(4泊5日)と4年生(3泊4日)の一字荘生活、6月には3年生(2泊3日)の至楽荘生活を行いました。7月には5年生と6年生の至楽荘生活(4泊5日)、9月には6年生の一字荘生活(4泊5日)を実施する予定です。

一字荘生活では、どの学年もハイキングや登山を行います。4年生は一字荘から千代田湖キャンプ場までの約70分の山道を歩きます。5年生は澄んだ空気の八島ヶ原湿原をスタートして、霧ヶ峰の最高峰である車山(1925m)を登ります。6年生は日本百名山の一つである蓼科山(2531m)に挑戦します。山頂からは八ヶ岳連峰をはじめ中央アルプスなど360度の大パノラマを楽しむことができます。本校でも運動する子とそうでない子の二極化傾向が進み、以前より下山するまでの時間はかかりますが、互いに励まし合いながらチャレンジしています。

大学との連携も強化しています。特に小金井地区附属学校園の第4期中期計画を受け、教職大学院生の高度な実践力を育成するため、来年度から実施予定の「共同実践研究」(ハイレベル実習)の準備を進めています。現在は双方にメリットがあるような実習の在り方を探っています。

働き方改革も一層推進しています。Teamsを活用して、会議時間の短縮やペーパーレス化の推進等、教育活動の改善につなげています。校務支援システムを有効活用することで、通知表や出席簿等の電子化を進め、校務の効率化を図っていま

す。各個人の働き方に合わせて、オンライン会議や在宅勤務も選択できるようにしています。

令和4年度より始まった本校舎の改修工事は、東側に続いて中央部が完成しました。1階の玄関や職員室、2階の図書室、3階の図工室等が新しくなり、廊下には人感センサーの照明が付き、冷暖房も快適になりました。オンライン配信室も新設され、本校教員が学生や保護者、公立学校の教員向けにコンテンツを制作し、YouTubeで配信しています。

撫子の会の皆様には、日頃より母校に対して多くのご支援をいただいております。会長の野久尾様には、本校の学校評議員を引き受けていただきました。心より感謝申し上げます。今年度の総会は、11月9日(土)に母校で開催されると伺いました。当日は本校の教育後援会である「なでしこ育成会」のグッズ販売を行うとのことです。ぜひ本校にいらしていただければと存じます。



【蓼科山頂でお弁当を食べる6年生】

「パワー溢れる同期会」

小金井昭和 51 年卒 中野 巨人

同窓会というのは、懐かしい面々と触れあい、旧交を温めるもの。しかしまさか人と触れあうことがリスクとなってしまう世の中が訪れるとは誰が想像したでしょう。

2年に1回行っている同期会。本来なら2021年秋の予定でした。ワクチン打った？が挨拶だった21年は、中止はやむを得ないという判断。翌年は取まっているのでは？と期待しつつも、ご記憶の通り一進一退の繰り返し。狭間なら開催しても問題ないのでは？という意見や、いやいや先生方もご高齢だし参加が難しいのでは等々、侃々諤々の議論の末、またもや1年延期。もしかしたら同期会で人が集まるなんて金輪際できないのでは？そんな気持ちもよぎりました。

しかし科学の進歩、人類の努力は実に素晴らしいもので、23年5月にととうとうコロナの5類へ移行。ようやく3年ぶりに幹事団は鈍いながらも開催に向けて準備をはじめることとなりました。そして2年延期されたことにより、我々の期はなんと還暦イヤー。コロナにもびっくりだが自分たちが還暦というのも驚き。いやあ、月日の経つのは早い。

毎年なんらかのイベントを企画の中心に据えていたのがこの会。さて今年は何を？と思っていたところ、WHO本部感染症ハザードシニアアドバイザーでコロナの最前線で戦った進藤奈邦子さんがジュネーブからその時期一時帰国しているという情報が。しかも参加の予定！

これは講演を頼むしかない！とメールを送ると、ありがたいことにご快諾頂いた。コロナで延期を余儀なくされた同期会のメインイベントはなんと！コロナ感染症についての講演と相成りました。

10月14日当日、朝から小雨交じりだったが、開催の午後になるとすっかり天気は回復。会場となった京王プラザホテルの高層階の宴会場からは都内の抜きのよい景観が。久しぶりに顔を合わ

せると一気に45年前に戻ります。紅顔の美少年たちはすっかり“厚顔”となり、麗しき乙女たちは・・・(あ、コメントは控えさせていただきます)そんなかつての少年少女たちが、この日は先生方を含めて50数余名が集った。

出席の中学校恩師は谷合先生と松岡先生。松岡先生が開会の時間を相当過ぎても現れず一同気を揉んだが、駅を降り間違えたというアクシデント、笑いで済んで良かったです。

そして、メインイベントである進藤奈邦子さんの講演のタイトルはズバリ「コロナ時の対応と今後のパンデミックに備えて」WHOの現状からテドロス事務総長のお人柄まで、とても興味深い講演でした。

最後に一言ずつ近況などを報告しつつ、あつという間の3時間。その後話し足りない、飲み足りないという御仁も多く、新宿の夜の街に繰り出して行ったメンバーがほとんど。翌日進藤さんに御礼のメールをすると「4次会まで行っちゃいました」とまさかの報告。還暦過ぎても有り余るパワー全開のOVER60、そして数年前のパンデミックを思えば、こうやってリアルで会えることの喜びを噛みしめた同期会となりました。



「同窓会報告」

小金井昭和 58 年卒 酒井（笠原）裕子

2020 年、50 歳の節目に同窓会をしようと幹事の方々が準備を重ねてくださっていましたが、コロナ禍によるステイホームの時となり、残念ながら延期に。

3 年越しの 2023 年 10 月 21 日（土）、ホテルエミシア東京立川にて、晴れて昭和 58 年卒の同窓会が開催されました。2006 年以來 17 年振り（途中、栗原君のお店等でのミニ同窓会を挟みながら）の大きな集いとなりました。小金井中学からの同窓生も合わせて、60 名以上、先生方も 7 名ご出席くださいました。

会場壁面には、幹事や有志の方々により思い出の写真や品が展示され、開会までの時間も一字荘・至楽荘などの思い出話に花が咲きました。木村洋子先生がお寄せくださったアルバムや、当時教育実習生として来られた栗山英樹さん（前 WBC 監督）が、長谷川さんへのお返事として書かれた葉書など、皆さん大切な物をお持ち下さいました。

会が始まると、懐かしい先生方からお話を頂きました。坏先生・佐藤澄子先生・立木先生・小林道正先生、又中学の橋上先生、谷合先生、石井健介先生、皆様お元気で活動的で、人生の先輩としても改めて尊敬致しました。立木先生は、今も講師の登録をされていて教師不足が嘆かれる中、現役で活動されているとか。小林先生は、高尾山でボランティアもされているそうで、私もその後高尾山を訪れる度に先生いらっしゃるかなと覗いています。

また、思いがけず早くに旅立ってしまった旧友との卒業後の交流を紹介して下さった先生もいらっしゃって、皆で冥福を祈りました。

一次会では「今はどうしているの？」と仕事や推し活の話をしたり、中には、毎年 1 月にチームを組んで富士スピードウェイのママチャリレースに出ているメンバーがいるそうで、平坦に見えてかなりのアップダウンがキツイとか。レースの HP を見ると参加資格に「途中で諦めない方」と

あります。そう言えば、中学の時には新宿から青梅まで歩く「徒歩き大会」に有志で何回か参加しましたが、どうやら「遠泳の魂、百までも。」なのかもしれません。

校歌斉唱に記念撮影でしめくり、何なら一字荘の歌や、中学のクラスソングも歌いたいくらいでした。

二次会は、お決まりの思い出話。あの時お前はああだったこうだったと。田中君は、話をする全員から「中央線飛乗り」エピソードを言われると笑いながら、その時は知らなかった後日談を話してくれました。三次会にはやっと桃井君が現れ、役者が揃いました。

私は、自分の人としての基礎は小金井で作られたと感じています。後に教員を目指したことにも大いに関わっていますし、あの時、先生方は「君たちならできる、もっとできる。」と信じてくださっていたのだと、自身が親になって改めて思う場面も多々ありました。

大学等の青春時代の友との同窓会とは少し違い、一緒に育った友との再会は、穏やかで、自分の来た道を振り返る時間でもありました。

幹事をしてくださった伊賀君、近藤さん、長谷川さん、松本君、細やかな準備をありがとうございました。名簿に所属クラスの変遷を纏めてくださったのがとても助かりました。写真を共有して下さった方々もありがとう。今見ると皆、子供の時と同じ顔をしています。きっと笑っている表情は変わらないのでしょうか。

50 歳を過ぎると同窓会が頻繁になるとよく言われます。皆さん、ぜひまた会いましょう。



「撫子の会・公式会員専用サイト」に新機能が追加されました!!

2021年9月に開設された「撫子の会・公式会員専用サイト」に、新たにクレジットカード決済機能が追加されました。

わざわざ郵便局や銀行に出向かなくても、その場でキャッシュレス決済が可能です。

トップページの金額が表示されたボタン(右のイメージの枠線部分)を押して、同窓会運営支援金のご寄付(2,000・5,000・10,000円)や、「第15回総会及びぶらり同窓会」の出席申し込みと参加費のお支払いを行えます。詳しいご利用方法は会員専用サイトの「お知らせ」でご案内いたします。

利用可能なクレジットカードは、VISA、MASTER、JCB、AMEX、ダイナースです。尚、お支払いにあたっては、440～550円のシステム利用料がかかりますので、皆さまにご負担いただきたく、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。



もちろん従来通り、●最新の会報および過去の会報アーカイブ、●学校・会員・恩師の皆様に関する最新情報、●イベント情報及びカレンダー、●フォトギャラリー、●同窓会や会報に対する感想等についてのアンケート機能も掲載、今後内容もますます充実させてまいります。

また、「紙の会報はエコロジーの観点からも受け取りたくない」という皆さまのために、会報送付の代わりにメールで最新の会報掲載のお知らせをお届けする設定への切り替えや、引っ越しなど会員情報の変更を、「マイページ」からいつでもご自分で登録できるなど、便利な機能もあります。

同会員専用サイトを利用するためには、会員登録が必要です。手順につきましては下記をご覧ください。

【会員登録手順について】

詳しい登録手順を「公式ポータルサイト」の「撫子の会・公式会員専用サイト登録マニュアル」に掲載しています。下記のURLまたは右のQRコードを読み取ってご確認ください。

http://www.nadeshikonokai.jp/images/miitus_manual.pdf



【本件に関するお問い合わせ】

撫子の会お問合せメールアドレス：nadeshikonokai@gmail.com

ご寄付のお願い

「撫子の会」の運営は、主に小学校卒業時の新入会員からの入会金と、皆さまからのご寄付でまかなわれています。昨年度も皆様からの温かいご寄付を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

本年度も当会の運営財源はもちろんのこと、母校の現役生の皆さんへの支援金につきましても、皆さまからのご寄付へのご協力を心よりお待ちしております。

ご寄付にあたりましては、同封のゆうちょ銀行「払込取扱票」または、公式会員サイト (<https://miitus.jp/t/nadeshikonokai/>) をご利用ください。

「ぶらり同窓会」報告

「3年ぶりのリアル同窓会開催 多彩なメンバーの参加で大いに盛り上がる！」

理事 柴田 通彦



2023(令和5)年11月11日(土)午後2時から、附属小金井小学校の食堂2階に於いて、「ぶらり同窓会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため3年ぶりのリアル開催となりました。

野久尾会長の挨拶の後、早速懇親会が開会となりました。今年は、母校にご配慮いただき、同時期に開催された在校生による「なでしこ展覧会」を鑑賞でき、「なでしこ育成会」のお母様方によるグッズ販売と懇親会への参加があったため、華やかな雰囲気が感じられる会となりました。進学先が異なってしまった中学生が久しぶりに旧交を温める場として同窓会に参加していたり、現役高校生の参加と挨拶、イタリア在住の卒業生の参加もあり、およそ40名前後の参加者でしたが、多

彩なメンバーの参加でかつてない新鮮な空気感漂う活気溢れる会となりました。

また母校の倉庫で発見され修復デジタル化された追分校や至楽荘生活の懐かしい8mmフィルム映像の特別上映等も用意されていたため、思わず当時へタイムスリップしたような懐かしさも楽しめたと思います。

ケータリングによる飲食類は量的には十分でしたが、幹事の嗜好を反映してか飲料がアルコール主体だったため、若年層からはノンアルももっと充実させて欲しいという声もいただき、今後の反省材料となりました。

久しぶりのリアル開催で、多彩なメンバーの参加もあって、開会当初はややぎこちなさもありましたが、そこは同じ撫子の徽章の下で学んだという共通のDNAのためか皆さんすぐに打ち解け、最後は全員で記念写真という大団円で幕を閉じました。



【なでしこ展覧会】

収支決算報告

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

A. 収入の部

科目	金額
前年度繰越金	14,181,912
入会金	740,000
※2024年3月卒業入会者/74名	
ぶらり同窓会会費	150,000
寄付金	825,057
受取利息	12,830
合計	15,909,799

注1) 新聞社豊島写真利用料/92,950円

8mmフィルム修復・デジタル化料(追分校春の遠足、水泳大会)/215,820円

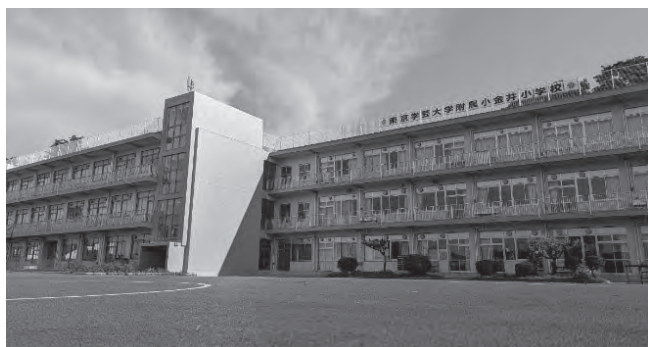
注2) 名簿整理料金/35,948円 新入会員払込取扱票印刷代/39,600円

B. 支出の部

科目	金額
会報24号印刷・郵送費	1,498,922
ぶらり同窓会懇親会費	225,263
HP維持費注1)	345,950
事務費注2)	162,573
卒業証書フォルダー寄付	139,755
慶弔費	17,100
次年度繰越金	13,520,236
合計	15,909,799

母校の校舎改修工事が続いています

母校では、大規模な校舎改修工事が進行しています。空き教室や図書室を活用しながら、授業を続けています。一方でオンライン配信室を新設して、ICT教育をハード面でもソフト面でもリードしています。来年以降には低学年棟の改修を計画。伝統を活かしつつ、着実に前進を続ける母校へのご支援を引き続きよろしく願いいたします。



学芸大学図書館にて企画展開催中



「草創期小金井地区の附属小・中学校」展
[会期] 2024年7月2日から9月27日
[時間] (平日)10時から16時
[場所] 東京学芸大学附属図書館大学史資料室
[問合せ先] 大学史資料室 TEL 042-329-7277

会員属性変更についてのお願い

会報の発行に並ぶ「撫子の会」の重要な事業・役割のひとつが会員情報の管理です。皆さまに確実に会報をお届けするためにも、お名前・ご住所等の訂正・変更などがありましたら、P.11の「登録情報変更依頼書」によりお知らせください。昨年からはGoogleフォームによる属性変更受付もスタートしました。詳しい記載方法、届け出方法は同依頼書の説明欄をご参照ください。

なお、公式会員専用サイトの「マイページ」で会員情報を変更された方は、同依頼書による変更の必要はありません。皆様から頂いた属性変更が、次号の会報送付に反映される締め切りは、毎年度末(3月末日)到着分までとします。

皆さまのご寄稿をお待ちしています！

皆さまと創る会報を目指しています。クラス会や同窓の仲間の集い、伝え残しておきたい母校の思い出話など何でも結構です。また会報に対するご感想やご意見もお待ちしております。「会報寄稿」「会報掲載希望」を明記の上、巻末の同窓会事務局までお寄せください。

.....

撫子の会 会報 25号

発行 2024(R6)年10月

発行責任者 野久尾 悟

印刷 (株) クラシブ

●投稿寄稿の送付・お問合せ先

メール：nadeshikonokai@gmail.com

郵送は、下記の同窓会事務局まで

●同窓会事務局

東京学芸大学附属小金井小学校内

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

●撫子の会郵便振替口座

00100-8-709121 加入者名：撫子の会

撫子の会・会員情報変更依頼書(GoogleフォームQRコード用)

【お手続き方法】

※ 右のQRコードを読み取って、Googleフォームから変更すると、本依頼書のご記入・ご送付が不要となり簡単です！



会員情報変更用Googleフォーム

撫子の会・会員情報変更依頼書(郵送用)

【お手続き方法】

A枠内の会員番号(封筒整理番号)と会員氏名を必ずご記入ください。
次にB枠内の該当箇所に変更・必要事項をご記入ください。

【送付方法と送付先】

本票を切り取り、封筒に入れて下記にご送付ください。

(送付先) 〒184 - 8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学附属小金井小学校内 撫子の会事務局宛 (切手代はご負担ください)

※ 次号の会報送付に反映される締め切りは、毎年度末(3月末日)到着分までとなります。

※ FAX及びメールによる送付・受付は廃止致しましたのでご了承ください。

A 枠	ご記入日	年 月 日	
	会員番号(封筒に記載の整理番号)	※必ずご記入ください。	
	会員氏名		

変更内容(該当する項目に☑の上、右欄に変更される内容をご記入ください)	
☐ご住所	〒 _____ 都 道 市 区 府 県 郡
☐電話番号	- -
☐お名前	
☐ご逝去	ご逝去の時期 _____ 年 月 _____ ※わかる範囲でご記入ください。 会報・ホームページ等への記載について ☐記載可能 ☐希望しない
☐郵送不要	事由をご記入ください。 ☐本人逝去のため ☐その他(_____)
☐その他 (連絡事項や 会報への意見・ 感想、その他 依頼事項など)	※ 本欄記載事項の会報・ホームページ等への掲載について ☐掲載してもかまわない ☐掲載希望しない ☐応相談により掲載可能

ふろしき
なでしこ風呂敷販売のご案内

秋風の候、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

東京学芸大学附属小金井小学校 教育後援会『なでしこ育成会』では、子ども達の教育環境がさらに整備充実されるよう事業活動をすすめております。本年は創立115年と節目の一年でございますので、趣向を凝らした限定グッズを製作しました。ご旅行の際にお荷物整理でもお使いいただける大判の風呂敷です。小金井小学校の様々なものをイラスト化した完全オリジナルデザインです。壁に吊るしてインテリアとしてお楽しみいただくのもお勧めです。小金井小学校の思い出にいかがでしょうか。

『撫子の会』の皆様のご厚意により、ぶらり同窓会当日即売会を開催いたします。ぜひ売り場へお立ち寄りください。同窓会にご参加になれない方を対象に、風呂敷に限り発送も賜ります。

売り上げの一部はなでしこ育成会への寄付となり母校の環境整備に充てられます。

ご購入方法①【ぶらり同窓会当日即売会◆その他グッズも取り扱い◆】お支払いは現金のみです

日 時：2024年11月9日（土）13時30分～14時

場 所：同窓会会場（小金井小学校 食堂2階）

ご購入方法②【メールでのお申し込み◆風呂敷のみ◆】別途送料、振込手数料をご負担ください

日 時：申込期間 2024年11月10日（日）～2024年11月16日（土） ※12月以降順次発送

方 法：下記育成会メールアドレスへ①～⑤を記載のうえお気軽にお問い合わせください

① お名前 ② お届け先(郵便番号/住所) ③ 電話番号 ④ ご希望カラー ⑤ ご希望点数
送料、振込先は返信メールに記載いたします。

数量限定のためご希望に沿えるかを含め、数日以内に必ず返信いたします。

※収集した個人情報は適切に取り扱い、風呂敷の発送以外には使用いたしません。

なでしこ風呂敷（風呂敷専門店おす美®に製作依頼したオリジナル品）

販売価格：1点 2,000円

カラー：赤（緋色）、青（呉須色）、黄（金糸雀色）

サイズ：約70cm

生地：綿100%



お問い合わせ 2024.nadeshikokoganei@gmail.com（なでしこ育成会）まで